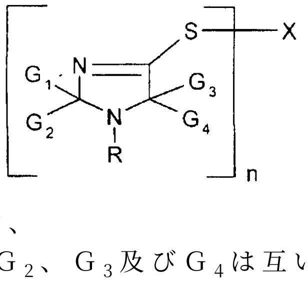
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年4月10日(2008.4.10)

【公表番号】特表2003-524004(P2003-524004A)
【公表日】平成15年8月12日(2003.8.12)
【出願番号】特願2001-562521(P2001-562521)
【国際特許分類】
　　*Ｃ０７Ｄ 233/42 (2006.01)*
　　*Ｃ０７Ｄ 405/12 (2006.01)*
　　*Ｃ０８Ｋ 5/378 (2006.01)*
　　*Ｃ０８Ｌ 21/00 (2006.01)*
　　*Ｃ０８Ｌ 23/00 (2006.01)*
　　*Ｃ０８Ｌ 55/02 (2006.01)*
　　*Ｃ０８Ｌ 101/00 (2006.01)*
　　*Ｃ０９Ｋ 15/30 (2006.01)*
【ＦＩ】
　　Ｃ０７Ｄ 233/42
　　Ｃ０７Ｄ 405/12
　　Ｃ０８Ｋ 5/378
　　Ｃ０８Ｌ 21/00
　　Ｃ０８Ｌ 23/00
　　Ｃ０８Ｌ 55/02
　　Ｃ０８Ｌ 101/00
　　Ｃ０９Ｋ 15/30

【手続補正書】
【提出日】平成20年2月19日(2008.2.19)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】式（Ｉ）
【化１】




(I)

［式中、
$G_1$、$G_2$、$G_3$及び$G_4$は互いに独立して炭素原子数１ないし１８のアルキル基又は炭素原子数５ないし１２のシクロアルキル基を表わすか又は基$G_1$及び$G_2$と基$G_3$及び$G_4$は互いに独立してそれらが結合している炭素原子と一緒になって炭素原子数５ないし１２のシクロアルキル基を形成し；
Ｒは水素原子、炭素原子数１ないし１８のアルキル基、オキシル基、－ＯＨ、－$CH_2CN$、炭素原子数３ないし６のアルケニル基、炭素原子数３ないし８のアルキニル基、非置換の又はフェニル基において炭素原子数１ないし４のアルキル基及び／又は炭素原子数１

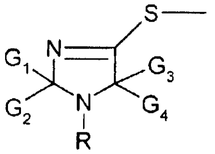
ないし４のアルコキシ基により置換された炭素原子数７ないし１２のフェニルアルキル基；炭素原子数１ないし８のアシル基、炭素原子数１ないし１８のアルコキシ基、炭素原子数１ないし１８のヒドロキシアルコキシ基、炭素原子数２ないし１８のアルケニルオキシ基、炭素原子数５ないし１２のシクロアルコキシ基、非置換の又はフェニル基において炭素原子数１ないし４のアルキル基及び／又は炭素原子数１ないし４のアルコキシ基により置換された炭素原子数７ないし１２のフェニルアルコキシ基；炭素原子数１ないし１８のアルカノイルオキシ基、（炭素原子数１ないし１８のアルコキシ）カルボニル基、グリシジル基、又はＧが水素原子、メチル基又はフェニル基である基$-CH_2CH(OH)(G)$を表し；

ｎは１、２、３又は４であり；および

Ｘはｎに等しい価の有機基を表すが、但しＸはメチル基およびエトキシカルボニル基とは異なり；および

ｎが２、３又は４の場合、基$G_1$、$G_2$、$G_3$、$G_4$及びＲの各々は式

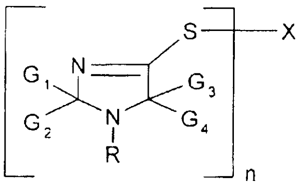
【化２】



で表される単位において同じであるか又は異なった意味を表し得る。］で表される化合物。

【請求項2】光、熱又は酸化により誘発される分解を受けやすい有機材料及び式（ＩＡ）

【化３】



(IA)

［式中、

$G_1$、$G_2$、$G_3$及び$G_4$は互いに独立して炭素原子数１ないし１８のアルキル基又は炭素原子数５ないし１２のシクロアルキル基を表わすか又は基$G_1$及び$G_2$と基$G_3$及び$G_4$は互いに独立してそれらが結合している炭素原子と一緒になって炭素原子数５ないし１２のシクロアルキル基を形成し；

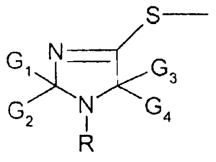
Ｒは水素原子、炭素原子数１ないし１８のアルキル基、オキシル基、$-OH$、$-CH_2CN$、炭素原子数３ないし６のアルケニル基、炭素原子数３ないし８のアルキニル基、非置換の又はフェニル基において炭素原子数１ないし４のアルキル基及び／又は炭素原子数１ないし４のアルコキシ基により置換された炭素原子数７ないし１２のフェニルアルキル基；炭素原子数１ないし８のアシル基、炭素原子数１ないし１８のアルコキシ基、炭素原子数１ないし１８のヒドロキシアルコキシ基、炭素原子数２ないし１８のアルケニルオキシ基、炭素原子数５ないし１２のシクロアルコキシ基、非置換の又はフェニル基において炭素原子数１ないし４のアルキル基及び／又は炭素原子数１ないし４のアルコキシ基により置換された炭素原子数７ないし１２のフェニルアルコキシ基；炭素原子数１ないし１８のアルカノイルオキシ基、（炭素原子数１ないし１８のアルコキシ）カルボニル基、グリシジル基又はＧが水素原子、メチル基又はフェニル基である基$-CH_2CH(OH)(G)$を表し；

ｎは１、２、３又は４であり；および

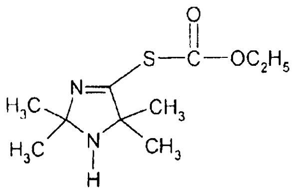
Ｘはｎに等しい価の有機基を表し、；および

ｎが２、３又は４の場合、基$G_1$、$G_2$、$G_3$、$G_4$及びＲの各々は式

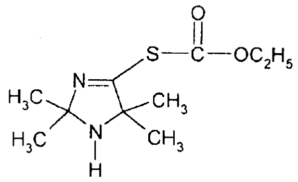
【化４】



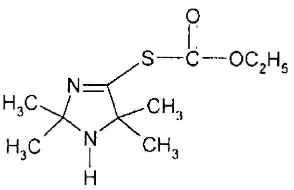
で表される単位において同じであるか又は異なった意味を表し、但し式
【化５】



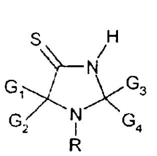
で表される化合物を含む写真材料は含まない］の化合物の少なくとも１つを含む組成物。
【請求項３】請求項２で定義された通りの式（ＩＡ）で表される化合物を含む塗料。
【請求項４】請求項２で定義された通りの式（ＩＡ）で表される化合物（但し、式
【化６】



で表される化合物は含まない。）を含む記録材料。
【請求項５】光、熱又は酸化により誘発される分解に対して有機材料を安定化する方法であって、前記有機材料に少なくとも１つの請求項２で定義された式（ＩＡ）で表される化合物を配合することからなり、但し、有機材料が写真材料である場合、式（ＩＡ）の化合物は次式
【化７】



とは異なるところの方法。
【請求項６】請求項２で定義された式（ＩＡ）の化合物を調製するための方法であって、式（Ｓ－１）
【化８】



(S-1)

［式中、Ｇ１、Ｇ２、Ｇ３、Ｇ４およびＲは請求項２で定義した通りのものを表す。］で表される化合物と式（Ｓ－２）
【化９】

$$[\mathrm{HAL}]_n\text{-}X \qquad \text{(S-2)}$$

［式中、ＮおよびＸは請求項２で定義した通りであり、およびＨＡＬはハロゲン原子を表す。］で表される化合物を不活性有機溶媒中、塩基不存在下で反応させることからなる方法。